

SUPPORTER'S SELECTION

サポーターの皆さんのオススメ本です。本選びの参考にどうぞ♪



豊橋

吉田 風香さん
オススメ

『屍人荘の殺人』
今村昌弘 著 (東京創元社 2017)
豊図開架 913.6:144

この作品はミステリー作品で多くの謎が登場します。孤立した館で次々と起こる殺人事件の謎を解くというありふれた話ですが、王道のミステリーだからと目が離せないハラハラの展開が繰り広げられます。また、この作品では探偵とその助手が謎に立ち向かいますが、それ以外にも、もう一人探偵が登場します。逃げ場のない孤立した館で起こった殺人事件の結末を明かすのは一体どれなのか、というのもこの作品の見所です。

豊橋

坂部 美空さん
オススメ

『Nのために』
湊かなえ 著 (東京創元社 2010)
名図開架 913.6:MI39

超高層マンション一室で起こった殺人事件。現場に居合わせたのは20代の4人の男女。事件の通報内容から物語がスタートし、事情聴取されている形で、話が進んでいきます。章ごとに語り手が変わっていくため、同じ時系列でも登場人物それぞれに様々な捉え方があり、物語も違うように感じます。タイトルにあるように各それぞれが「N」のために行動した結果、殺人事件という悲劇に繋がってしまいます。切ない純愛ミステリーです。

豊橋

鳴海 遥香さん
オススメ

『ドミノ』
恩田陸 著 (角川書店 2004) [角川文庫]
名図開架 913.6:065 外部書庫 913.6:065

舞台は東京駅。登場人物は27人と1匹。ひとつのハプニングがドミノ倒しのように次のハプニングを呼び起こす。ハラハラドキドキ、笑いもありのパニックコメディ。27人と1匹という登場人物の多さに最初は驚いてしまいますが、登場人物はみんな個性的なものでとても楽しみながら読めます。個人的には、舞台子役に挑戦する女の子のお話がお気に入りです。みなさんもぜひ読んでお気に入りの話を見つけてください。

豊橋

野澤 明美さん
オススメ

『ジュゴン:海暮らし、人とのかかわり』
池田和子 著 (平凡社 2012) [平凡社新書]
豊図開架 081.H51:646 名図開架 080.H51:646

ジュゴンという動物を知っていますか？イルカでもなくシャチでもないこの動物は人魚のモデルになった動物です。あのまるまるとした体型から人魚なんて思いつきもしませんが(笑)。
野生では沖縄を含む一部の温かい海でしか生息できませんが、ジュゴンの生息地域はさらに狭まっていて、乱獲などで個体数も減少しています。どうすればジュゴンの住む場所を守れるのか、絶滅させないためにはどうすべきか、考えてみませんか？

豊橋

櫻井 綾さん
オススメ

『沸騰!図書館 100万人が訪れた驚きのハコモノ』
橋波啓祐 著 (KADOKAWA 2014)
豊図開架 016.219:H78

市民病院の民営化、テレビドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」の口舌誘致等様々な政策で人口5万人の佐賀県武雄市を活性化させてきた市長が次に目をつけたのは図書館だった！スターバックスコーヒーを備え、BGMを流し、菓屋書店が併設されている、「ツタヤ図書館」が誕生した経緯とその裏にある市長の考えに迫ります。

豊橋

鈴木 萌日さん
オススメ

『東京の美しい図書館』
立野井一恵 著 (エクスナレッジ 2021)
豊図開架 010.213:Ta94

本書は東京に設立されている図書館の写真集です。国立国会図書館から始まり公共図書館、大学図書館、さらには旧図書館(現在図書館として機能していない)まで収録されています。外観、内部、家具など細部まで注目する写真や説明から、その図書館の特徴・建築のこだわりに至るまで知ることのできる一冊です。コロナ禍により外出が厳しくなっていますが、この本で図書館めぐりを味わうひとときを過ごしてみたいのがおすすめです。

豊橋

安井 ひなたさん
オススメ

『テスカトリポカ』
佐藤究 著 (KADOKAWA 2021)
豊図開架 913.6:Sa85

敵対するカルテルとの抗争の末、本拠地メキシコを離れた麻薬密売人ルミコは、潜伏先のジャカルタで出会った日本人・吉永と共に日本で新たな臓器売買ビジネスを立ち上げる。現代社会の裏に存在する巨大な闇ビジネスとそれに巻き込まれていく人々を、アステカ神話を混ぜて描いた傑作クライムノベル。
第165回直木賞の受賞作でもある本作の、作者の圧倒的な知識量に裏打ちされた、緻密な描写を是非体感してみてください。

豊橋

伊藤 朱里さん
オススメ

『夢をかなえるゾウ』
水野敬也 著 (飛鳥新社 2007)
豊図開架 913.6:MI96.1

ごくごく普通のサラリーマンである主人公は、自分を変えようとして自己啓発本を読み、実践するも、どれも長続きせず自分を変えられずにいた。ある晩、酔っぱらって帰宅した主人公は「変わりたい!」とインド旅行のお土産であるガネーシャ像に泣きつく。翌朝、主人公が目覚めると横には本物のガネーシャが…。ガネーシャの出す課題をひとつひとつこなしながら主人公が自分の人生を変えていく物語。とても楽しく読める作品です。

豊橋

岡村 紘汰さん
オススメ

『虚ろな十字架』
東野圭吾 著 (光文社 2017) [光文社文庫]
豊図開架 913.6:H55

主人公、中原清正と妻小夜子は娘を殺害した犯人に死刑判決が出た後、離婚した。数年後、中原は小夜子が殺害されたことを知る。犯人の死刑を望む彼女の両親の相談ののっけ、中原は彼女が死刑制度撤廃反対を訴えていたことを両親から知らされる。度々話題に上がる「死刑」をテーマに描かれるミステリー作品です。死は償いになるのか、そもそも罪は償えるのか。物語を最後まで読んだあと、今一度死刑について考えさせられる作品です。あなたの大切な人が殺されたとき、あなたは犯人に死刑を望みますか？

名古屋

山本 時さん
オススメ

『五体不満足』
乙武洋匡 著 (講談社 1998)
豊図開架 289.1:086 名図開架 289.1:086

1998年、作者が大学生の時自身の半生を振り返り記した書籍だ。
「障害は不都合です。だけど、不幸ではありません」
両手両足がなくなっただけで今日も電動車椅子で走り続ける、早大生・乙武洋匡君の「生きる力」とは、五体のうち四体までがない。けれども、「オちゃん」は言う。「障害を持っていても、ボクは毎日楽しいよ」

名古屋

水野 花音さん
オススメ

『ガリヴァー旅行記』
スウィフト 著 富山太佳夫 訳 (岩波書店 2002)
豊図開架 908.3:Y99.6s 名図開架 908.3:Y99.6

小人の国を訪れるガリヴァーの冒険を誰しも見たことがあるだろう。ガリヴァーが多様でファンタジーな国を旅する作品として楽しめるが、実はもっとも奥深い。痛烈な社会諷刺があり、人類の愚かさを露わにしていける人間批判がある。「天空の城ラピュタ」「Yahoo!」の原点も明らかに。現代社会や人間について考えさせられる大人向けのガリヴァー旅行記。

名古屋

西村 咲良さん
オススメ

『そして誰もいなくなった』
アガサ・クリスティ著 清水俊二 訳 (光文社 2017) [光文社文庫]
名図開架 933:C58

10人の男女が屋敷の主人オーエン夫妻により孤島に集められる。しかし当のオーエン夫妻の姿は現れず、その中で突如10人の過去の罪を告発する録音された音声の流れる。各々過去の潔白について話し合いはしていくが、一人また一人と命を奪われる事件が起こる。犯人は一体誰なのであろうか。
本を普段読まない方も手に取ってほしい作品です。かなり前に刊行された作品ですが、現在でも十分に面白いと感じます。

豊橋

山下 彩奈さん
オススメ

『さがしもの』
角田光代 著 (新潮社 2008) [新潮文庫]
名図開架 913.6:Ka28

皆さんには、「本にまつわるエピソード」がありますか？大好きで何度も読み返した本、落ち込んだときに読むと元気が出る本、初めて買ったもらった本など、私たちの身近なところに大きな影響を与えた本はたくさんあるかと思いませんか。この本には、そんな「人と本のエピソード」が10編詰まっています。
特典目当てで購入した本とはいえ、このような、時に温かく、時に切ない気持ちにさせてくれる本に出会えたことを嬉しく思っています。今では、私と本のエピソードの1つです。ぜひ読んでみてください。

豊橋

小田 七美さん
オススメ

『深泥丘奇談』
綾辻行人 著 (KADOKAWA 2014) [角川文庫]
豊図開架 913.6:A98

京都に住むミステリ作家の日常、なのだろうか。傲慢に描いてしまえば、きっとこれは「幻想」で「ホラー小説」で作り話だ。
でも、描き出された光景は、やけにありありと色彩を帯びて濃い寄ってくる。いつの間にか気味の悪い懐かしさが体を侵食している。なぜかこの感覚を知っている気がする。ここは、私たちのすぐ近くにある世界なのかもしれない。現実と幻想の境界がぐにゃり、と歪む、その瞬間をおたのしみください。

豊橋

梅崎 菜々美さん
オススメ

『推し、燃ゆ』
宇佐見りん 著 (河出書房新社 2020)
豊図開架 913.6:U92

高校生のあかりは学校生活も家族関係も上手くいかず、生きづらさを抱えていた。そんな彼女にとっての生きがいはアイドルグループ「まざま座」に所属する上野真幸を推すことだった。あかりは日々、推しを「解釈」することに心血を注いでいた。しかし、推しがファンを殴ったという事件で炎上してしまふ。描写がとてつもないリアルに描かれており、推しがいる人なら共感できるところが多くあると思います。ぜひ読んでみてください。

名古屋

石原 東生子さん
オススメ

『ガラスの海を渡る舟』
寺地はな 著 (PHP研究所 2021)
名図開架 913.6:Te42

空堀商店街には兄妹2人が営むガラス工房があった。兄の道は幼い頃からコミュニケーションを取るのが苦手だが、妹の羽衣子はコミュニケーションは得意。しかし、妹の羽衣子は自分の個性を見つめることができず、ガラス作家としての才能を持つ兄にコンプレックスを抱き、衝突してしまいます。祖父の遺言によって2人に引き継がれたガラス工房は、果たして存続できるのか？
人の感情を否定せず受け止めることの難しさを改めて感じ、周りの人々との関係を大切にしていきたいと思わせてくれる一冊です。

名古屋

石崎 真羽さん
オススメ

『贖罪』
湊かなえ 著 (東京創元社 2009)
名図開架 913.6:MI39

田舎町で起こった悲劇。それぞれの視点で語られる真実と謎。
15年前の女儿殺害事件をきっかけに狂わされる4人の少女の運命とは？
歪な人間関係や細かい心理描写に引き込まれる作品です。言葉の重みや人間のネガティブな感情を感じられます。独特な展開、後味の悪い結末も楽しめるのでイヤミスが好きな人におすすめです。